



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月5日

上場会社名 ホクト株式会社
 コード番号 1379 URL <http://www.hokto-kinoko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 水野 雅義
 (氏名) 高藤 富夫

TEL 026-259-5955

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	35,746	△5.5	847	△83.9	1,432	△71.1	581	△76.3
24年3月期第3四半期	37,807	△1.4	5,261	△32.0	4,963	△31.0	2,455	△41.3

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 683百万円 (△70.3%) 24年3月期第3四半期 2,298百万円 (△40.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	17.70	—
24年3月期第3四半期	74.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	65,853	44,718	67.8
24年3月期	66,783	46,984	70.3

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 44,645百万円 24年3月期 46,921百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	10.00	—	47.00	57.00
25年3月期	—	10.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	47.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,700	0.4	5,600	△29.3	5,500	△33.6	2,670	△39.4	80.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) HOKTO MALAYSIA SDN.BHD. 、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、(添付資料)3ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信(添付資料)3ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	33,359,040 株	24年3月期	33,359,040 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	1,007,904 株	24年3月期	336,970 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	32,829,226 株	24年3月期3Q	33,022,321 株

(注)自己株式数には、従業員持株ESOP信託口の保有する当社株式247,800株を含めて表示しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において四半期レビュー手続が実施中ではありません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかな回復傾向が見られたものの、欧州の財政危機や新興国経済の減速など景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。しかしながら12月の政権交代による経済政策への期待感から、為替相場は円安方向に、また株式市況は上昇傾向へと変化の兆しがみられました。

一方、個人消費におきましては緩やかながら増加に転じているものの、今後の景気後退懸念や雇用情勢の不安から、引き続き消費者の節約志向は根強く厳しい企業間競争が引き続きました。

このような経済環境の中、当社グループは製品の安全性に万全の体制で臨むとともに、各事業におきまして収益の拡大に努めてまいりました。当社グループの中核を占めますきのこ事業におきましては、前期に新設いたしました佐久第二きのこセンターが通年の出荷となり、生産量は増加いたしました。海外での展開につきましては、台湾北斗生技股份有限公司の台湾第二きのこセンターが9月より出荷を開始したことやHOKTO KINOKO COMPANYが稼働率を高めたことから生産量は増加し、ほぼ計画通りとなりました。11月にはマレーシアに子会社を設立し、平成26年10月の出荷を目指し準備を進めております。販売面につきましては、すでに試験販売中のホンシメジに続き11月に新製品「霜降りひらたけ」の試験販売を開始いたしました。既存のきのこにつきましては、販売量は堅調に推移したものの、全般的な野菜単価の低迷に引きずられる形での単価は低調に推移いたしました。特に9月の記録的な残暑はその後の需要期にも影響を及ぼしましたが、12月に入り例年のない寒さから鍋を中心とした需要が増え少しづきの単価も改善してきたものの、売上高は計画を下回る状況で推移いたしました。化成品事業におきましても、依然として販売環境は厳しく、計画に対して僅かながら未達となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は357億46百万円（前年同四半期比5.5%減）、営業利益8億47百万円（同83.9%減）、経常利益14億32百万円（同71.1%減）、四半期純利益5億81百万円（同76.3%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

[きのこ事業]

きのこ事業におきましては、生産の拡大と品質の向上、販売の強化を中心に業績の拡大に努めてまいりました。生産面につきましては、前期より生産を開始いたしました佐久第二きのこセンターのエリンギの通年出荷により、生産量が増加しました。海外での展開につきましては、台湾北斗生技股份有限公司の台湾第二きのこセンターが9月よりブナシメジの出荷を開始したことやHOKTO KINOKO COMPANYが稼働率を高めたことから生産量は増加いたしました。11月にはマレーシアに海外3拠点目となる子会社を設立し、平成26年10月のきのこ出荷に向けて準備を開始いたしました。当第3四半期連結累計期間の生産量は、ブナピーを含めブナシメジが32,599 t（同5.3%増）、エリンギ14,859 t（同10.7%増）、マイタケ8,527 t（同2.9%増）となり、ほぼ計画通り推移いたしました。販売面におきましては、すでに試験販売中のホンシメジに続きまして、新製品「霜降りひらたけ」の試験販売を11月より開始し、順調に出荷を行っております。しかしながら、既存のきのこにつきましては、上半期の温暖な気候により全般的に野菜の出荷が順調に推移したことから野菜単価が低迷し、これに引きずられる形での単価も低調に推移いたしました。特に9月の記録的な残暑は、きのこの需要期まで大きく影響いたしました。例年のない厳しい寒さから少しづきの単価は改善してきているものの、消費者の生活防衛意識の高さからくる企業間競争等は厳しく、売上高に大きく影響を及ぼしたことから、計画を下回る状況で推移いたしました。

以上の結果、きのこ事業全体の売上高は290億51百万円（同7.0%減）となりました。

[化成品事業]

化成品事業におきましては、原油価格の高止まりや消費者の節約志向などにより、厳しい販売環境が引き続いておりました。そのような環境のなか、包装資材部門を中心とした新規開拓の強化や既存取引先へのきめ細やかな営業を展開いたしました。しかしながら販売の拡大にはいたらず、計画を僅かではあるものの下回る状況で推移いたしました。

以上の結果、化成品事業全体の売上高は66億94百万円（同1.7%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①資産の部

資産の部は、658億53百万円となり、前連結会計年度末より9億30百万円減少いたしました。流動資産は137億81百万円となり前連結会計年度末より18億72百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金31億61百万円の減少と受取手形及び売掛金12億10百万円の増加によるものであります。固定資産は520億72百万円となり、前連結会計年度末より9億42百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産9億58百万円の増加によるものであります。

②負債の部

負債の部は、211億34百万円となり、前連結会計年度末より13億35百万円増加いたしました。流動負債は171億85百万円となり前連結会計年度末より12億88百万円の増加となりました。これは主に短期借入金35億円の増加と未払法人税等27億37百万円の減少によるものであります。固定負債は39億49百万円となり、前連結会計年度末より47百万円の増加となりました。

③純資産の部

純資産の部は447億18百万円となり、前連結会計年度末より22億65百万円の減少となりました。これは主に配当金の支払18億82百万円と四半期純利益5億81百万円からくる利益剰余金の減少と自己株式の増加10億78百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、世界的な経済情勢や消費環境の不透明さ等により当面の国内景気が回復感に乏しい状況で推移しており、個人消費の回復も停滞基調となっていること、きのこ市場が暖冬などの天候要因や市場環境に影響されるなど通期の見通しに対し不透明な要因もあることから、平成24年11月2日公表の通期業績予想を据え置くことといたしました。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

連結範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間におきまして、HOKTO MALAYSIA SDN. BHD. を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,531	3,369
受取手形及び売掛金	4,166	5,376
商品及び製品	1,123	1,229
仕掛品	2,735	2,999
原材料及び貯蔵品	424	455
その他	692	374
貸倒引当金	△19	△24
流動資産合計	15,653	13,781
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,259	41,941
減価償却累計額	△16,000	△17,005
建物及び構築物 (純額)	24,258	24,935
機械装置及び運搬具	20,977	24,247
減価償却累計額	△12,393	△14,074
機械装置及び運搬具 (純額)	8,583	10,173
土地	11,300	11,230
その他	2,945	1,800
減価償却累計額	△1,168	△1,260
その他 (純額)	1,777	539
有形固定資産合計	45,920	46,879
無形固定資産	326	293
投資その他の資産	4,883	4,899
固定資産合計	51,129	52,072
資産合計	66,783	65,853
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,313	4,702
短期借入金	4,000	7,500
未払法人税等	3,062	325
引当金	777	429
その他	3,743	4,228
流動負債合計	15,897	17,185
固定負債		
長期借入金	3,753	3,708
引当金	7	7
資産除去債務	46	139
その他	93	93
固定負債合計	3,901	3,949
負債合計	19,798	21,134

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500	5,500
資本剰余金	5,692	5,692
利益剰余金	37,072	35,774
自己株式	△716	△1,795
株主資本合計	47,548	45,170
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△63	△56
為替換算調整勘定	△563	△468
その他の包括利益累計額合計	△626	△524
新株予約権	63	73
純資産合計	46,984	44,718
負債純資産合計	66,783	65,853

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	37,807	35,746
売上原価	24,586	26,413
売上総利益	13,221	9,332
販売費及び一般管理費		
販売手数料	2,360	2,180
運搬費	2,142	2,290
賞与引当金繰入額	73	50
その他	3,383	3,963
販売費及び一般管理費合計	7,960	8,485
営業利益	5,261	847
営業外収益		
受取配当金	62	66
受取地代家賃	134	144
為替差益	—	327
助成金収入	90	80
その他	58	47
営業外収益合計	346	665
営業外費用		
支払利息	55	68
為替差損	581	—
その他	8	11
営業外費用合計	645	80
経常利益	4,963	1,432
特別利益		
受取保険金	54	2
その他	—	0
特別利益合計	54	2
特別損失		
固定資産売却損	—	37
固定資産除却損	0	10
投資有価証券評価損	43	—
災害による損失	93	—
その他	0	—
特別損失合計	137	48
税金等調整前四半期純利益	4,879	1,387
法人税、住民税及び事業税	1,526	465
過年度法人税等	450	—
法人税等調整額	446	340
法人税等合計	2,423	805
少数株主損益調整前四半期純利益	2,455	581
四半期純利益	2,455	581

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,455	581
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△70	7
為替換算調整勘定	△86	94
その他の包括利益合計	△157	101
四半期包括利益	2,298	683
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,298	683
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第3四半期連結累計期間におきまして、「従業員持株ESOP信託」(以下、「ESOP信託」という。)の信託契約に基づき取得および処分を行っており、取得による増加が3億99百万円、処分による減少が20百万円となりました。また、取締役会決議に基づき、自己株式を422,500株、6億98百万円取得いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間におきまして自己株式が10億78百万円増加し、当第3四半期連結累計期間末の自己株式は17億95百万円となっております。

(5) 重要な後発事象

該当事項ありません。